

マルケタ(MQ)

【セクター】 ITサービス

【市場】 NASDAQ

【企業概要】

2010年創業でクレジットカードの発行と支払い処理のソリューションを顧客企業に提供するフィンテック企業です。従来は金融機関向けに提供されていたソリューションを新興のデジタル企業が使いやすい形に変えて提供したことで、ブロック（旧スクエア）、ドアダッシュ、インスタカート、アフームホールディングス、Klarnaなど高成長のデジタル企業を顧客として獲得しています。2021年末の有効カード枚数は1.2億枚、2021年の決済総額は前年比85%増加して約1,110億ドルに達しています。

【業績】（単位：売上高、純利益は百万ドル、EPS、1株配当、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%、純利益、EPSは調整後ベース）

決算期	売上高	純利益	EPS	1株配当	BPS	ROE	自己資本比率
20.12期	290	-	-	0.00	-2.0	-	63.0
21.12期	517	-164	-0.45	0.00	13.2	-	86.0
22.12期（予）	720	-200	-0.37	0.00	2.7	-13.3	-

※EPS：1株当たり利益、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率

（出所）BloombergのデータよりSBI証券作成

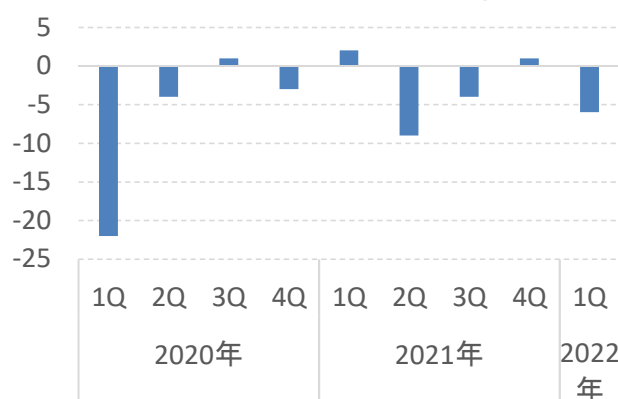
【主要指標】

同社プラットフォームでの決済額（億ドル）



（出所）会社資料よりSBI証券が作成

調整後EBITDAマージン（%）



注：EBITDAは、利払い、償却、税引き前利益です。

（出所）会社資料よりSBI証券作成

【会社の見方】

高成長のデジタル企業を主要な顧客としたことで、事業は爆発的に拡大してきました。特に最大顧客であるスクエアは、2020年12月期売上上の70%を占めています。一方、今後の成長を考えると、既存の大手企業がデジタル化への対応を行うためにサービスメニューを拡充する中で、同社のソリューションが採用される可能性がある点に成長機会があると考えられます。その観点で2020年にJPモルガンチェースを顧客としたことは、そのような方向での成長の可能性がうかがえます。また、3月にはシティグループのカード会社がマルケタのトークン化サービス（機密情報をトークンと呼ばれるランダムに生成された代理データに置き換えて保存・利用するサービス）を採用すると発表しています。

【見通し・注目点】

1-3月期の売上は前年同期比54%増、決済額は366億ドルで前年同期比53%増で、いずれも市場予想を上回りました。一方、純利益は61百万ドルの赤字で市場予想の42百万ドルの赤字を下回りました。粗利率は45%と市場予想の43.4%を上回りましたが、営業費用の増加が予想以上でした。4-6月期のガイダンスは、売上が前年同期比46～48%増、粗利率は40～41%、調整後EBITDAマージンはマイナスの10～11%です。売上成長は鈍化、利益率の改善は停滞気味です。

本レポートに関するご注意事項

- ・本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。
- ・本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。本資料の内容は作成時点のものであり、信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したのですが、正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載の情報、意見等は予告なく変更される可能性があります。

手数料及びリスク情報等

- ・SBI証券で取り扱っている商品等へのご投資には、各商品毎に所定の手数料や必要経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等は価格の変動等により損失が生じるおそれがあります(信用取引、先物・オプション取引、外国為替保証金取引、取引所CFD(くりっく株365)では差し入れた保証金・証拠金(元本)を上回る損失が生じるおそれがあります)。各商品等への投資に際してご負担いただく手数料等及びリスクは商品毎に異なりますので、詳細につきましては、SBI証券WEBサイトの当該商品等のページ、金融商品取引法に係る表示又は契約締結前交付書面等をご確認ください。